

平成 29 年度 鑑石園 高齢者地域支援窓口

事業報告書

1. 事業運営の概況

富士市からの委託を受け、原田・青葉台の両地区(富士市北部・富士市吉原中部地域包括支援センター)のブランチとしての機能を担ってきた。総合相談機能の一部を地域に展開し、高齢者及び高齢者を抱える家族が、住みなれた地域で安心、安全に生活が続けられるよう、各機関と連携しながら、事業を適正に運営した。

2. 事業計画実施状況

(1) 職員資質の向上

① 職員信条について

職員信条を、毎朝礼時に全員で唱和し遵守する事で、高い意識と自覚のもと業務に努めた。

② 研修への参加

積極的に研修に参加し、自己研鑽に努めた。また、地域のサロン・悠容クラブ訪問や、出前講座等で研修の成果を地域の高齢者に還元し、在宅生活継続の一助に繋げた。

平成 29 年度に参加した外部研修は次の通り。

月	内 容	主 催
H29.9月	・神戸・青葉台地区 民生委員とケアマネジャーの連携会議	・富士市北部・吉原中部 地域包括支援センター 及び 神戸・青葉台地区 民児協
H30.2 月	・富士市在宅医療と介護の連携体制推進講演会	・富士市高齢者介護支援課
H30.3 月	・富士市高齢者総合相談担当職員研修会 ・富士市生活支援体制整備シンポジウム	・富士市高齢者介護支援課 ・富士市高齢者介護支援課 及び富士市社会福祉協議会

(2) 地域に根ざした相談窓口になるための方策

民生委員・まちづくり協議会・福祉推進会・悠容クラブ・サロン・地域住民の体操教室等との連携を密にし、地域の行事にも参加した。

① 移動相談窓口の開設

昨年度に引き続き、原田農協で年金入金月(偶数月)の計6回移動相談窓口を開設し、地域へ相談所の周知をした。その他、例年通り原田まちづくりセンターと滝川福祉センターで各月1回、青葉台まちづくりセンターで月2回相談窓口を開設した。

② 固定相談窓口の体制確立

24時間365日対応の相談窓口を設置し、居宅介護支援事業所や特別養護老人ホームと連携し、常に相談機関としての機能が果たせるような体制をとることができた。

③ 総合事業

担当の包括支援センターと連携しながら、利用者様(原田清流クラブ:生きがいデイサービス及び健康づくりデイサービス)の利用の調整や、利用者様やご家族との生活の相談・介護保険への移行等に対応し、利用者様が安心して在宅生活の継続が出来るよう支援した。

(3) 地域ネットワークを構築するための方策

① 支援センターたより(てるてNEWS)を継続発行し、訪問先へ持参し情報提供をした。

② 原田地区及び青葉台地区、民児協への出席

毎月の地区民児協定例会へ冒頭参加し、情報交換することにより、民生児童委員との信頼関係を築けた。昨年度からの継続として、地域に鑑石園事業を周知する為に、施設の各部署の責任者が輪番制で参加した。

③ 地域のネットワーク作りのための会議の開催

地域包括ケアという考えのもと、地域が上手く連携をとれるよう両地区包括支援センター主催の地域ケア会議の企画委員として対応した。

④ 原田地区及び青葉台地区、福祉推進会への出席

福祉推進会や、福祉推進会主催の行事に出席して情報交換を行い、地域のニーズを把握し、会員との見守りネットワークを築くことができた。昨年に引き続き両地区のサロンへ定期訪問を行い、より深い関係作りができた。

⑤ 原田地区及び青葉台地区、悠容クラブ定例会への参加

毎月の定例会に参加し、情報提供を行った。毎年度参加依頼のある原田地区健康教室と青葉台地区悠容クラブ演芸大会に参加し、会員の方々との親交を深めた。

⑥ 出前講座の開催

悠容クラブや地区の福祉推進会・ふれあいサロン等に出向き、介護予防、生きがい作りを中心とした講座を開催することで、地域の高齢者の健康を助長すると共に、各種団体との連携を築いた。今年度は、鑑石園在宅介護支援センター及び吉原中部地域包括支援センターと協力して、介護者教室(てるての知恵袋)を年1回開催した。

H30年3月『認知症サポーター講座』(認知症を学び地域で支えよう)

⑦ 地区文化祭

昨年に引き続き、原田地区の文化祭に清流クラブ等利用者の作品を出展し、地域との文化交流を図った。青葉台地区の文化祭には出展はしなかったが、訪問し激励した。

(4) 富士市との連携・協力

- ・ 北部・吉原中部包括支援センターへ毎月の実績報告や相談をかねて、電話連絡や訪問をし、連携をとった。